



薫っ子だより

「気づき・考え・行動する 薫の子」



令和7年5月13日

学校便り No.7

文責：校長 新田直子

運動会に向けて

いよいよ運動会が今週末に迫り、運動会の練習や準備が本格化してきました。各学年の子どもたちは自分の種目の並び方や動きなど、しっかりと話を聞いて真剣に練習に取り組んでいます。

5月9日には、運動会全体練習を行い、開会式やラジオ体操の練習をしました。全校生での初めての練習でしたが、整列の仕方や話の聞き方がすばらしかったです。ラジオ体操も上手にできました。運動会実行委員会や体育委員会の児童の皆さんのすばらしい姿が、よいお手本になっているようでした。2時間目終わりの長い休み時間「ふれ合いの時間」には、低学年リレーや中・高学年リレーの練習も行われています。この場面でも、6年生が低学年に優しく教えてあげるすてきな姿が見られています。応援団の皆さんは「70周年記念」の運動会を盛り上げようと、放課後まで一生けん命準備や練習を行っています。

運動会まであと3日、これまでの子どもたちの頑張りが輝く運動会となることを祈っています。



自分の気持ちを言葉で表そう

コロナ禍を経て、メディア等でも自分の気持ちを言葉にできない、言語化できないことが大きな問題につながることが危惧されています。自分や他人の感情、気持ちを理解したり表現したり調整したりする能力「感情リテラシー」を幼い頃から身につけることの重要性が、話題となっています。

「自分の気持ちを言葉で表すこと」により、子どもたちは気持ちを伝え合ったり、互いの気持ちに折り合いを付けたりすることができるようになります。反対に、うまく自分の気持ちを言葉にできずに、困ってしまったり苦しくなったり、もやもやした気持ちで相手を傷つける言葉を使ってケンカやトラブルにつながってしまうこともあります。相手の行動でいやな気持ちになることを「やめて」と相手に伝えること、間違った行動に対して「やめよう」と伝えること、困ったときに「手伝って・助けて」と言えることなど、自分も相手も大切にしたい表現を学んでいくことが大切です。「気持ちを言葉で表現すること」により、相手の気持ちに気付いて折り合いを付けたり、正しく判断する力を身に付けたりすることができるのです。困ったときこそ温かな言葉・適切な言葉で気持ちを伝えることができるよう、呼び掛けたいと思います。

ふわふわことば

だいじょうぶ

きにしないで

みかただよ

ありがとう

がんばれ

まけないで